

令和4年度 自己評価表

愛媛県立内子高等学校・本校

33

教育方針	<p>1 知力・気力・体力の充実と共生の心を育む教育を推進する。</p> <p>2 自ら学び、自ら考え、自ら表現できる生徒を育成する。</p> <p>3 社会に貢献できる生徒を育成する。</p> <p>重点努力目標</p> <p>生徒一人一人の確かな学力の向上と心身の鍛錬に取り組み、人格の陶冶を図る。</p> <p>—自己肯定感を高め、 自ら考え行動できる生徒の育成—</p>	重点目標	<p>1 育てたい生徒像</p> <p>(1) 自分が自分であることに誇りを持ち、逞しく困難に立ち向かう生徒を育てる。</p> <p>(2) 確かな学力を身につけ、進路実現のために主体的に取り組む生徒を育てる。</p> <p>(3) 常に向上心を持ち、目標に向かって粘り強く努力する生徒を育てる。</p> <p>(4) 自他の生命と健康を大切にし、人権意識の高い生徒を育てる。</p> <p>(5) 気持ちのよい挨拶ができ、一生懸命に清掃ができる生徒を育てる。</p> <p>2 作りたい学校像</p> <p>(1) 安全・安心な校内の体制と教育環境の整備をし、信頼される学校運営を行う。</p> <p>(2) 教職員の資質・能力の向上と、学校組織の活性化を図る。</p> <p>(3) 地域との結びつきを大切にし、地域から愛される学校をつくる。</p>
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	円滑な組織運営	・報告・連絡・相談を徹底し、教職員が団結して業務に取り組むと共に、健康で楽しく業務を行えるよう更なる働き方改革を推進する。	B	・教職員間の連携を密にし、その場に応じて適切な対応をすることができた。 ・生徒・教職員が「チーム内子高校」を合言葉として取り組んだ。	・本分校の協力体制を強化することで更なる業務の縮小に取り組む。 ・ICT機器を用いた教育活動の研究を更に進めていく。
	事務の適切な執行	・連絡を密にし、適正な事務処理を実践する。	B	・適正な事務処理が実施できた。	・適正な事務処理の共通理解に努め、更に円滑な処理をしていく。

学校経営	事務の適切な執行	・安全安心な教育環境の整備、資源・経費の節約に努める。	B	・電気料金や物価の高騰により予算が逼迫したが、物品購入等の経費の節約に努め、予算内に収めることができた。	・節電や節水等、資源の有効活用に積極的に取り組んでいく。 ・日々の点検により安全への意識を高め、更なる環境整備に努める。
学習指導	家庭学習の充実	・各教科で課題の出し方を工夫する。	B	・授業中の指示に加え、配信による課題の提示等も増えてきた。	・オンラインを活用することで、効率的で効果的な課題の配信と提出方法を確立していきたい。
		・自主学習 1日3時間以上を目指す。 A:180分以上 B:180分未満 C:120分未満 D:60分未満 E:0分	C	・家庭学習を3時間以上確保できている生徒が少ない。特に1、2年生が少ない。保護者へのアンケート調査でも、学年が下がるほど家庭学習が不足していると回答している。	・家庭学習の重要性について1年生の早期に、各教科の授業、ホームルーム活動、学年集会など様々な場面で指導していきたい。また、2年生についても、継続して粘り強く指導していきたい。
	教科指導の充実	・生徒が考察や討論など主体的・対話的な活動ができるような授業改善を目指し、学習意欲を向上させる。	B	・電子黒板の活用（グラフや動画の提示等）によって、学習意欲を持たせる工夫が行われている。 ・新型コロナウイルス感染症の流行は、対話的な学習活動の在り方にも影響を及ぼした。	・学習に主体的に取り組む姿勢が最も大切であり、その必要性を感じさせる授業展開を目指していきたい。
		・生徒個々の到達度を把握し、「分かる授業」と「鍛える授業」を実践する。	B	・小テストの実施や提出物のこまめな確認等によって、生徒の実態に応じた「分かる授業」が概ね行われた。	・「鍛える授業」に関しては、全体の学力底上げと同時に、習熟度の高い生徒を更に鍛えることができるように授業を工夫したい。
※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。					

研修	校外研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各種研修会や学校訪問研修等への参加の啓発をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・時勢に乗った教育活動の展開の一助となるように、啓発に努めた。 ・新型コロナウイルス感染症による開催形態の変更に伴い、オンラインの講座に参加することが多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン教育を含めた学習環境を整える力量を付ける研修の場を設定していく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・校外研修会の成果を報告する校内研修会を設け、情報の共有化を図り、教職員の資質と指導力の向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会で習得したことを報告し、現況や最新の情報について全教職員で共有し、教育活動に生かした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各課・学年の年間計画を提示し、研修体制の構築に努めていく。
	校内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教科内研修や研究授業・相互授業参観週間(年2回)等を実施し、幅広い見識を身に付ける研さんのきっかけとすることで、個々の資質と専門領域以外の領域を踏まえた指導力の向上を図る。 <p>[相互授業参観]</p> <p>A:100% B:95~99%</p> <p>C:80~94% D:75~79%</p> <p>E:75%未満</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・相互授業参観週間を実施して、他教科の授業も参観することで新たな発想を得るなど、個々の教科指導、生徒指導に生かすための研さんの場となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科の特徴を学ぶ機会を設け、個々の授業形態の改革を図るきっかけづくりをしていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による生徒指導、人権・同和教育、教育相談、特別支援教育等に関する研修会を実施し、教職員の資質と指導力の向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による教育活動を通して、個々の教育力の向上に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各課・学年が主催する研修会の年間計画や学期計画を全教職員に提示して、研修体制の構築に向けて工夫していく。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

生徒指導	規範意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生としての節度ある言動を取り、規則を遵守するように、家庭・地域・関係機関との連携を深める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には節度ある言動が取れていると思うが、まだまだ稚拙な言動を取る者もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成人年齢が18歳になったことにより、より一層節度ある言動が取れるように、注意喚起していきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動の防止・早期発見に努め、特別指導0を目指す。 A: 0件 B: 1～2件 C: 3～4件 D: 5～6件 E: 7件以上	E	<ul style="list-style-type: none"> ・残念ながら、問題行動の件数が増えてしまったので、全校生徒に注意喚起を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の様子や、生徒からの情報、SNSによる投稿など、あらゆる情報に敏感に対応し、問題行動の早期発見に努める。
		<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい学校生活を送れるように、いじめ0を目指す。 A: 0件 B: 1～2件 C: 3～4件 D: 5～6件 E: 7件以上	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今のところ0件ではあるが、SNSの使い方次第では、今後いつ起こってもおかしくない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心に、各行事が生徒主体の運営により、楽しく活動できるように工夫し、楽しい学校生活を送れるようにする。
	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年1か年皆勤者50%以上を目指す。 A: 50%以上 B: 49～40% C: 39～30% D: 29～20% E: 20%未満	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年目標を達成できず、皆勤率は、 1年生: 41%(1月末現在) 2年生: 42%(1月末現在) 3年生: 39.5% であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早寝早起きなどの基本的な生活習慣について、生徒に向けて集会や行事の時間を活用して指導し、規則正しい1日の過ごし方を身に付けさせる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・教職員・生徒による校門指導を充実させ、普段から5分前行動ができるように心掛けさせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻する生徒はほぼいないものの、同じ生徒が5分前登校ができていない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定刻よりも早く行動することの意義や目的をホームルーム活動や行事等の時間を活用して理解させる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ指導(月1回)を行い、いつでも面接ができるような清楚で端正な身だしなみを心掛けさせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月数名の生徒が身だしなみを整えておらず、指導を受けている。また、身だしなみ指導日以外は少し乱れている生徒も見受けられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも面接を受験できるように清潔感を持ち行動させる。

生徒指導	生徒会活動の活性化	・リーダー研修会の事前指導を徹底し、充実した研修会にし、リーダーの育成を図る。	B	・コロナ禍により、研修会が実施されないことが多かった。	・今後は以前のような活動になることが予想されるので、充実させていきたい。
		・生徒会を中心とする学校行事の企画・運営の活性化を図る。	A	・コロナ禍においても趣向を凝らし、分校を含めて全ての生徒が楽しいと感じることのできる行事を企画・運営ができた。	・今後は本校分校連携にも力を入れて取り組みたい。また、地域との関わりにも目を向けていきたい。
	交通安全指導の充実	・自転車・原付バイクの交通マナー向上のための講習会を開催し、自転車・原付バイクの交通事故・違反0を目指す。 A: 0件 B: 1～2件 C: 3～4件 D: 5～6件 E: 7件以上	A	・交通マナーに関して注意喚起した結果、外部からの苦情や事故もなかった。	・今後も交通委員会を通して交通マナーアップに努めたい。
		・自転車のヘルメット着用率100%を目指す。 A: 100% B: 90～99% C: 80～89% D: 70～79% E: 70%未満	B	・残念ながら登下校時のヘルメットの着用率は100%ではない。プライベートでの着用率は不明である。	・自ら率先してヘルメットを着用させることができるよう、自転車マナーを向上させる活動をしていきたい。
		・教職員・係生徒による街頭指導(月1回)を実施する。	A	・交通委員が中心となって教員と共に街頭指導を行った結果、事故もなく、交通マナーもきちんと守れた。	・今後も継続して指導を行い、事故0の学校をつくらしていきたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

生徒指導	部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動と勉学との両立を図り、主体的に考え、活動する生徒を育成する。 ・県総体出場60名、県高文祭参加40名を目指す。 <p>[運動部] A:60名以上 B:50~59名 C:40~49名 D:30~39名 E:30名未満</p> <p>[文化部] A:40名以上 B:30~39名 C:20~29名 D:10~19名 E:10名未満</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・県総体出場者91名、高文祭参加者40名と、各部活動が健闘し、郷土芸能部やライフル射撃部などが活躍した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も文武両道を目指し、活気のある活動ができるよう努めたい。
進路指導	進学指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を中核に、補習や個別指導を通して学力の向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員で、補習や個別指導、特に小論文や面接指導を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導や小論文・面接における全教職員による指導を継続していく。今後更に資料の充実を図りたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・第一志望校への合格率100%を目指す。 <p>A:100% B:90~99% C:70~89% D:60~69% E:60%未満</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学2名、松山大学4名を含む大学21名の合格者を出すことができた。短期大学、専門学校についてもほぼ希望どおりの進路実現ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一志望校合格率100%を目指し、早い段階から進学への意識を向上させ、指導の充実を図っていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・Classiを利用した自学自習の支援や進学指導の充実を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・課題配信以外にも模試と連携した学習法の紹介や進路先についての研究を促した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・教職員に対し、各種機能の活用方法について周知徹底を行い、今後も積極的な活用に努めていく。
就職指導の充実	就職指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・就職内定率100%を目指す。 <p>A:100% B:90~99% C:70~89% D:60~69% E:60%未満</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一般企業就職希望者については、全員が第一希望の企業に内定した。 ・公務員希望者は対策講座に参加するなどして合格者が増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業に関する情報提供を積極的に行い、早い段階での希望職種の決定を促していく。公務員希望者にも指導を強化する。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

進路指導	就職指導の充実	・授業を中核に、各種検定の資格取得等を通して、学力と技能の向上を図る。	B	・資格取得に努めさせ、商業科の協力のもと検定合格に向けた補習も実施できた。	・資格取得推進を継続するとともに、公務員希望者に対応した基礎学力の定着・向上を図っていく。
	キャリア教育の充実	・職場見学・企業説明会等を通して望ましい職業・勤労観を身に付けさせ、自分らしい生き方の実現に向けて必要な能力や態度を育成する。	B	・新型コロナウイルス感染症の影響により、職業体験は実施することができなかったが、企業説明会を実施することができた。	・職業体験・対外的活動の実施方法についての再検討やICT機器の活用を行い、キャリア教育の充実に努めていく。
人権・同和教育	いじめ対策	・いじめの早期発見、早期対応に努め、いじめが起きにくい、いじめを許さない学校づくりを目指す。	B	・校内いじめアンケート調査を各学期に実施することで、いじめ発生の抑止力になっている。事例に対して、担任や学年主任が迅速に対応した。	・今後もアンケートを踏まえ、学年団を中心に組織だった迅速な対応をしていく。
		・生徒から相談できる教員75%以上を目指す。 A:75%以上 B:60~75% C:50~59% D:40~49% E:40%未満	B	・生徒が各教員に気軽に話しかけられる雰囲気があり、良好な人間関係が随所に見られた。面談場所も工夫できていた。	・教職員間で共有すべき内容については、素早く伝わるようにしたい。
		・人権・同和教育課と生徒課が協働して、いじめ未然防止に努める。	A	・人権・同和教育課と生徒課が連携することで、いじめを未然に防止することができた。	・スマホ安全教室やいじめ問題など、生徒課と協力して、今後も実施していきたい。
	教職員研修と人権・同和教育活動の充実	・人権委員会誌「てのひら」を毎月1回発行し、生徒や保護者に人権に関する情報と本校の活動内容を発信し、人権問題について話し合う機会をつくる。	C	・家庭に「てのひら」を持ち帰らせ、情報を共有することがあまりできなかった。	・内容を充実させ、読みやすくすることや、生徒に編集させるなど、自主性を育てていきたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

人権・同和教育	教職員研修と人権・同和教育活動の充実	・人権委員会誌「てのひら」を活用し、教職員の知識理解の向上を図る。	B	・生徒に「てのひら」を配布する際に、人権の日に関するコメント等を事前に準備する中で、教員の知識を広げるきっかけとなった。	・新しい用語が増えてきているが、最近取り上げられる性的マイノリティの問題などにも的確に捉えた指導をしていく。
		・校外の人権・同和教育活動や研修会参加率80%以上を目指す。 A:80%以上 B:60~79% C:50~59% D:40~49% E:40%未満	A	・新型コロナウイルス感染症の影響により中止になったり、リモートによる研修会が多かったりしたが、参加できた場合は全員が感想を提出し、今後に生かす研修となった。	・積極的な参加を促すとともに、研修会の内容を「人権かわら版」で紹介して周知させていく。
図書館教育	図書館活動の推進	・教材センター・学習センターとしての機能を持つ図書館としての環境整備を徹底する。	B	・生徒の学力向上・人格形成と、教職員の指導力向上とライフワークの充実を目指し、幅広いジャンルの図書の購入に努めた。 ・調べ学習や読書等の授業の場としての役割を果たした。	・学習センター、情報センター、教材センターとしての役割を果たせる図書館を引き続き目指していく。 ・生徒・教職員に対し、各種機能の活用方法について周知徹底を行い、今後も積極的な活用に努めていく。
		・「生徒自身がつくる図書館」を目指して図書委員の活動を活発にする。	B	・図書委員がお薦め本のポップを作成して紹介し、貸出に努めた。	・図書委員の活動の場を更に増やしていく。
		・「ライブラリー・ニュース」(月1回) 「おすすめコーナー」(隔週の入替) 「今日あなたの出会うべき本コーナー」(毎日入替) 等を充実させ、図書館の利用者数を増やす工夫をする。	B	・図書委員が企画・運営する月刊「ライブラリー・ニュース」を発行し、読書欲の喚起につながるように工夫した。	・読書の啓発活動につながる様々な方法を模索していく。

図書館教育	図書館活動の推進			・豊かな心の育成のために、季節感を表現したコーナーやテーブルを設置し、来館しやすい雰囲気づくりに努めるなど諸活動の成果として来館者数が増えている。	
		・「朝読書」を徹底し、読書欲を喚起させる。	B	・週1回の朝読書の実施ではあるが、ほとんどのクラスで読書の習慣化につながりつつある。	・意欲的に「朝読書」に取り組ませることで読書習慣の定着を図り、感じ、考える力を培う基礎となるようにしていく。
		・年間図書貸出数一人あたり5冊以上を目指す。 A:5.0冊以上 B:3.6~4.9冊 C:2.0~3.5冊 D:1.5~1.9冊 E:1.5冊未満	A	・年間図書貸出数は、一人あたり5.8冊であった。	・「内子高校お薦め図書」を検討し直し、心情の豊かさや知識・学力の向上につながるものを精選していく。
情報管理	個人情報の保護	・セキュリティ対策の研修会を実施し、個人情報の漏えいを防止する。	C	・年度当初と第1学期末に研修会を実施できた。	・年2回は必ずセキュリティ研修を実施できるようにする。
		・ホームページの情報発信では細心の注意を払い、必ずダブルチェックを行う。	A	・当日の担当者と教頭とダブルチェックの体制ができている。	・個人情報保護を念頭に、必ずダブルチェックを実施するようにする。
	適切な情報発信	・開校日はホームページを毎日更新する。 A:毎日 B:週4日 C:週3日 D:週2日 E:週1日	B	・開校日は担当者を決めており、1年を通してホームページの更新ができた。	・開校日は必ずホームページの更新を実施する。
		1人1台端末の活用		B	・オフィス365、エイリス等を活用して端末の利用ができた。

保健管理	健康管理の向上	・健康観察や学校生活を通して生徒の健康状態を確認する。	A	・毎日、健康観察表を記録させ、体調不良の者には保護者に連絡をして早退・受診させた。	・新型コロナウイルスの感染が収束しても、引き続き健康状態の把握に努めていく。
		・手洗い・うがいや換気など感染症予防のための行動を習慣化させ、安心・安全な学校環境を整える。	B	・休み時間に適時巡視し、「ほけんだより」で啓発するなど注意喚起を行った。 ・教室等の消毒を毎日行った。	・新型コロナウイルスの感染が収束しても季節性インフルエンザの流行もあるので、引き続き実行していく。
教育相談	教育相談の充実	・健康観察などから生徒の心身の状態をよく観察し、組織で支援の充実を図る。	A	・生徒の様子を観察し、支援の必要な生徒に対し、関係者と連携を図りながら対応することができた。	・配慮が必要な生徒と関係者をつなぎ、組織で継続した支援をしていく。
		・教育相談研修会や学年会等を通して、生徒理解に努め、組織で早急に対応する。	B	・各種会合で、生徒の情報を共有し、生徒理解に努めることができた。	・関係者と連携を図り、生徒理解だけにとどまらず、専門家の活用等を検討していく。
学年	〈1学年〉 基本的な生活習慣の確立・維持	・相互に協力して生徒理解に努め、心身ともに自律した生徒を育成する。	B	・1学年に関わる教職員間で情報交換を密にすることによって、生徒一人一人に対する理解が深まり、関係部署と連携を図りながら、心身ともに自律した生徒の育成を促す指導ができた。	・相互に連携を図って生徒理解を更に深め、諸活動に主体的に粘り強く取り組むことのできる生徒の育成に努める。
	〈2学年〉 進路目標の明確化を図り、その実現のために主体的に取り組ませる	・学校生活に主体的かつ対話的に取りこませ、各自にリーダーシップを自覚した言動を育成する。	B	・2年間中止となっていた修学旅行も実施することができた。 ・制限がある中でも生徒とともに創意工夫し、主体的に活動することができた。	・生徒一人一人の主体性を更に伸ばし、学校のリーダーとしての意識を高め、進路実現に向けてきめ細かな指導に努める。
※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。					

学年	〈3学年〉 進路指導の充実	・自らの進路実現に向けて目標を立て、具体的な行動ができる生徒を育成する。	A	・面談等を通じて時間をかけて志望校が将来像に合致しているかを生徒自身で整理させた上で、具体的な行動を促すことができた。	・社会の抱える課題に対して自分の意見をきちんと持つことによって、進路選択の幅が広がることを実感させ、主体的かつ具体的な取組ができる生徒の育成に努める。
ボランティア活動	ボランティア活動の充実	・奉仕活動やボランティア活動に自主的に参加し、積極的に取り組む姿勢を育成する。	B	・全校生徒によるクリーン愛媛運動の予定であったがコロナ感染症の影響により、校内の美化運動に全校で取り組んだ。 ・部活動や委員会単位で、内子町内の清掃や学校前のカーブミラーを磨く活動、笹祭りの飾り付けや門松づくりを行った。	・コロナ禍ではあったが、制限のある中で最大限の活動ができた。コロナ収束の際には更に積極的に参加させたい。
PTA活動	開かれた学校づくりとPTA活動の充実	・開かれた学校づくりを目指し、各月初めに生徒に行事予定表を配布し、どこでも閲覧できるように、ホームページにも年間行事予定表を掲載する。	B	・行事予定に関しては、例年どおり、毎月末に余裕を持って配布することができた。 ・HPに予め年間行事案を掲載することで、部活動や行事等の計画を立てやすくなることになった。	・今後とも保護者との関係を深め、開かれた学校づくりを意識した行事予定の作成・配布を心掛けたい。
		・年に2回、PTA会報を発行し、PTA活動と共に学校生活や教員紹介をし、学校と保護者との繋がりを強めたり、地域との理解を図る。	B	・PTA会報については、学校活動の様子や大会等の様子を盛り込むことによって、保護者の方々に開かれた学校を感じていただくことができた。	・PTA会報等をとおして、保護者や地域の方々に各大会の結果報告等、本校の教育活動の様子を、今後もしっかりと発信していきたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

P T A 活 動	開かれた学校づくりと P T A 活動の充実	・文化祭、体育祭バザー等で 会員相互の親睦を図り、更に 円滑な人間関係の構築と信頼 関係の強化を図る。	B	・コロナ禍により、昨年に引 き続き、研修旅行・バザー等 のP T A 活動が中止となっ た。 ・来年度以降、再開されるこ とを期待し、その際には保護 者の方々の声を反映しながら 実施し、満足していただきたい。	・多くの活動が中止になっ たが、保護者の方々の声を大切 にしながら改善を加え、今後 も一層充実したP T A 活動を 行っていきたい。	
	業 務 改 善	適切な勤務時間	・勤務時間を意識して業務を 行い、効率化を図る。 ・80時間超時間外勤務職員数 0を目指す。 A：0名 B：1～2名 C：3～5名 D：6～8名 E：9名以上	B	・会議の回数を減らした。 ・職員間で、勤務時間を意識 した会話が以前よりも多く聞 かれるようになった。	・今後も業務の効率化を図 り、質の高い教育活動ができ るように共通認識を図ってい く。
		職場環境の整備	・健康観察を実施して健康状 況を把握し、教職員の疲労や 心理的な負担の軽減を図る。	C	・4月～12月において、80時 間超時間外勤務をした職員数 は1か月平均3.8名であった ・期間のうち1か月でも該当 した職員は14名、3か月以上 の職員は5名であった(全職 員数36名)。 ・月平均からは一応の成果が 認められるが、39%にあたる 職員が長時間勤務をしている 状況からは十分に達成でき たとは言えない。	・部ごとに事情は異なるが、 副顧問等と連携して正顧問の 負担軽減が図られている部が 増えつつある。 ・月に数度個々にノー残業 デーを設置するなどの方策を 実践していきたい。 ・職員の心身の健康を配慮し て今後とも早い退勤を促して いく。
			B	・毎日の健康観察記録表の提 出のほか、話を聞いたり観察 をしたりし、養護担当の教員 と連携をとって職員の健康状 況を把握した。不調の際には 休暇を取得しやすい職場の雰 囲気を醸成できた。	・話しやすい職員室の雰囲気 づくりに努める。課や学年団 のつながりを強め、個人の小 さな変化に気付けるようにす るとともに、気軽に学び合い や助け合いができる職場づく りを推進していく。	